

Day

2

タイトル

4. アフリカの廃棄物管理改善に資する日本の技術(本邦企業の取り組み事例)

発表者

明和工業株式会社 海外事業部 ディレクター 徳成武勇

要約

発表者から以下のとおり、説明があった。当社は1965年に石川県金沢市で設立され、現在50名の従業員が働いている。我々の主力製品の一つは、バイオマス炭化装置である。特に未利用のバイオマス炭化を得意としている。本装置で生成したバイオ炭は、燃料や水分調整を行う土壌改良材としても利用することが可能で、同時に、家畜の疾病対策に効果が期待される木酢液を生成する。

今日、我々は気候変動という環境問題に直面している。例えば、ケニアではとうもろこし栽培に甚大な被害を及ぼす干ばつに多くの人々が苦しんでいる。前述したように、バイオ炭は土壌の水分を調整する機能を有している。つまり、干ばつに対する植物の回復力の改善に資することを意味している。

現在、我々の技術を検証するため、JICAの支援を受けてケニアで実現可能性調査を実施している。有機系廃棄物を収集、乾燥後、せん断し、最後に我々の炭化装置で炭化する。生成されたバイオ炭と木酢液は、現在現場検証されている。この手法は、バガスや汚泥など、アフリカ諸国で他の未利用バイオマスにも活用することが出来ると考えている。

廃棄物の収集、処理、処分の統合的システムの構築は、事業の成功への鍵であると認識している。そのため、未利用のバイオマスを効率的に活用する循環型システムの構築に向け、自治体や地元企業や農家といった最終利用者との協力が必要になる。

質疑応答においては、アフリカでのパートナー探しについては、ニジェールは、8割を農業に依存する農業国であり、今回発表された技術が活用できる資源が豊富に見つかる予測されるため、ニジェールがよいのではないか、という意見が出された。それに対して、質問が特定の内容であったため、モデレーターから、コーヒープレイク中に個別のミーティングを行うよう薦められた。(この意見は、当該発表と前後の発表に向けられたものであった。)